

# 交流文化芸術センター

## 重点目標

- 1 文化創造都市としての「育成」事業の推進
- 2 市民と共に歩む施設を目指した「市民協働」事業の推進
- 3 魅力ある「鑑賞」事業の推進
- 4 交流文化芸術センター・市立美術館のスムーズな開館と運営

## 平成26年度 重点目標管理シート

重点目標	文化創造都市としての「育成」事業の推進			部局名	交流文化芸術センター	優先順位	1位
総合計画における位置付け	第3編 自然・文化 第2章 新たな文化を創造していくために 第2節 新しい時代に向けた文化活動を創造する			2014市長マニフェスト における位置付け		- 3 -	
現況・課題	芸術文化をとおして魅力あるまちづくりを行うためには、次世代を担う子ども達を対象にした育成事業に取り組む必要があります。また、音楽や美術作品とのふれあいで心が癒され、楽しさと感動を提供する施設が望まれていることから、施設全体として多様で質の高い芸術に対応できる空間を用意し、市民が様々な芸術文化と触れ合える機会を提供するとともに、市民自らが、様々な形で発表できる場を提供することが必要と考えます。						
目的・効果	心のゆとり、豊かさが求められる今日、上田市においては、文化を基調とする独自性を活かして自立的に発展していくことが求められています。しかし、現状ではその拠点施設及び市民活動支援の取組における満足度は高いとは言えない中で、交流文化芸術センターを地域の魅力と活力を創るシンボル施設として位置づけ、上田市の有する地域文化や歴史的、文化的遺産等の資源を活かし、地域の将来を担う子どもたちの育成を目指します。教育や福祉・医療面との連携により行政効果、そして、まちに賑わいと活気をもたらし、観光や商業、地場産業なども含めた地域経済にも大きな波及効果をもたらす施設として建設し、心豊かな市民生活と都市創造の拠点とします。						
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
	<b>芸術家ふれあい事業の実施</b> (1) 子どもと音楽家が出会うクラスコンサートの実施（アーティストが小学校に出向き、5年生を対象としてワークショップとミニコンサートを開催し芸術家と身近に接する事業） (2) 各地域の公民館などを会場に地域ふれあいコンサートの開催	(1) 5月～1月  (2) 5月～1月	(1) 市内全小学校25校で実施  (2) 9地域で実施	(1) 5月(ピアノ)丸子地域 4校 6月(声楽)真田地域 4校 7月(プラスバンド)武石・川西地域 3校 9月(ヴァイオリン)塩田地域 3校 9月(弦楽四重奏)西部 3校 合計17校で実施。 (2) 5月(ピアノ)丸子地域 6月(声楽)真田地域 7月(プラスバンド)武石・川西地域 9月(ヴァイオリン)塩田地域 9月(弦楽四重奏)西部地域 合計6地域で実施。		(1) 12月(弦楽四重奏)中央地域 3校 1月(ピアノ)城南地域 3校 1月(ヴァイオリン)豊殿・神科地域 2校 合計8校で実施。 (年間市内全25小学校で実施。) その他高校、中学校等7回実施。 (延参加者数1,904人) (2) 12月(弦楽四重奏)中央地域 1月(ピアノ)城南地域 1月(ヴァイオリン)豊殿・神科地域 合計3地域で実施。 (年間9地域で開催。延参加者数1,516人)	
	<b>参加・体験型事業の実施</b> (1) 参加・体験型講座、創造公演の実施（プロの演出家と市民がワークショップを実施し演劇舞台づくりを体験し、舞台作品を発表） (2) 子どもアトリエにおけるプログラムの試行 (3) 絵画、木彫、版画、写真等の講座の実施 (4) 他の文化施設との連携	(1) 2月～3月  (2) 3月開催  (3) 10月～3月  (4) 4月～3月	(1) ワークショップの開催と舞台作品の発表  (2) 平成27年度の本格実施に向けたプログラムの試行。 (3) 講座3回実施  (4) 館長、プロデューサー企画会議を立ち上げ、市全体の文化振興に当たる。	(1) 参加・体験型講座、創造公演の実施に向け、演出家等関係者と準備を進めた。  (2) 8月に試行プログラムを実施した。  (3) 開館後の開催に向け準備。  (4) 他のホール、美術館関係者へのあいさつ回りや視察受け入れ、記念式典への招待等により今後の連携に向けた準備を進めた。		(1) 市内高校演劇班生徒とプロの演出家による「実験的演劇工房」を開催。 参加(出演)高校生30人 公演入場者120人 公募による一般市民とプロの演出家による演劇公演を開催。 参加(出演)者12人 公演入場者100人  (2) 10月、11月に南部保育園、室賀保育園の園児を受け入れ、寄附金により製作したお絵かきボードを活用した絵の具の活動を行った。  (3) 10月に木彫り体験、木版画体験の講座を行い、12月には親子年賀状教室、小松美羽展銅版画体験、2月にリトグラフワークショップを行った。  (4) まつもと市民芸術館との連携事業「ユビュ王」公演とワークショップの実施。(公演入場者、3日間延200人)	
特記事項	<b>市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点</b> ・子どもから大人まで、多くの市民が参加できる事業を企画 ・市民参加・協働による事業の実施			<b>取組による効果・残された課題</b> 育成を施設の運営理念の根底に据え開館前から「育成事業」に取り組んできた結果、小学校に芸術家が出向いて行うふれあい事業については、計画通り市内全25の小学校で実施することができ、子どもアトリエや屋外のお絵かきボードを活用した子どもたちの体験事業も含め、園児や児童等の感受性や創造力を養う効果が生まれた。 地域の公民館で行うワンコインコンサートでは、地域住民が気軽にクラシック音楽等に触れられる機会が提供でき、今後の事業への導入の効果が得られた。			

## 平成26年度 重点目標管理シート

重点目標	市民と共に歩む施設を目指した「市民協働」事業の推進		部局名	交流文化芸術センター	優先順位	2位
総合計画における位置付け	第3編 自然・文化 第2章 新たな文化を創造していくために 第2節 新しい時代に向けた文化活動を創造する			2014市長マニフェスト における位置付け	- 3 -	
現況・課題	芸術文化をとおして魅力あるまちづくりを行うためには、次世代を担う子ども達を対象にした育成事業に取り組む必要があります。また、音楽や美術作品とのふれあいで心が癒され、楽しさと感動を提供する施設が望まれていることから、施設全体として多様で質の高い芸術に対応できる空間を用意し、市民が様々な芸術文化と触れ合える機会を提供するとともに、市民自らが、様々な形で発表できる場を提供することが必要と考えます。					
目的・効果	心のゆとり、豊かさが求められる今日、上田市においては、文化を基調とする独自性を活かして自立的に発展していくことが求められています。しかし、現状ではその拠点施設及び市民活動支援の取組における満足度は高いとは言えない中で、交流文化芸術センターを地域の魅力と活力を創るシンボル施設として位置づけ、上田市の有する地域文化や歴史的、文化的遺産等の資源を活かし、地域の将来を担う子どもたちの育成を目指します。教育や福祉・医療面との連携により行政効果、そして、まちに賑わいと活気をもたらし、観光や商業、地場産業なども含めた地域経済にも大きな波及効果をもたらす施設として建設し、心豊かな市民生活と都市創造の拠点とします。					
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
	<b>施設運営への市民参加の推進</b> (1) 市民サポーター（施設スタッフと共にボランティアとして施設運営を担う）の組織立ち上げと研修のためのサポーターミーティングの開催 (2) うえだアーツ・スタッフ・アカデミー（劇場、美術館の企画や活動について総合的に学び、地域とアーティストを繋ぐアーツスタッフを育成） (3) 友の会の会員募集と組織の立ち上げ（友の会の会員を募集、組織し、鑑賞者として施設を支えていただく） (4) 地元メディア、企業等との連携強化（企業メセナ行動計画の策定と積極的誘致）	(1) 募集 4月～5月 組織立上 6月 (2) 募集 5月～6月 講座 7月～3月 (3) 募集 7月～ (4) 4月～10月	(1) 6月以降随時サポーターズミーティングを開催 (2) 基礎講座6回開催 専門講座の開催 (3) 会員が各事業に参加しやすい環境を整備します。 (4) 企業との連携強化を図るための行動計画の策定と企業メセナの積極的誘致を行う。	(1) 4月～5月にかけて市民サポーターを募集し、74人のサポーター登録を行った。 サポーター会議を2回行い（7月、9月）今後の活動内容について協議した。 サポーター研修として、市民公開講座（2回）、音響測定、避難訓練コンサートに参加した。 (2) 5月に募集し、22人のアーツスタッフ登録を行った。 5回の講座開催と2回のオープン講座を開催した。 (3) 票券システムが9月21日のチケット販売から導入されたこととともない、チケットメンバーズの募集を開始し、1週間で279人(9月末現在)の登録があった。 (4) 地元メディアとの共催で、開館記念事業を企画し着手した。また、地元企業等から開館に向けての事業や備品寄付等の提案を受け協議を進めた。	(1) 年間を通して5回のサポーター会議を開催するとともに、サポーター自身がサントミュージゼとの係わりや役割について意見交換を行い、役割ごとの班に分かれ今後の活動について方向付けを行なった。 各コンサートでのチラシはさみ込みや地域ふれあい事業の会場準備等サポーターと館スタッフが協働して実施した。 (2) 年間を通じて6回の基礎講座、2回の専門講座、2回のオープン講座を開催し、地域とアーティストを繋ぐアーツスタッフの育成に努めた。 (3) 友の会のあり方について内部で検討を進めるとともに、票券システムのチケットメンバー登録者の募集を推進し、平成26年度末登録者は2,500人となった。 (4) 地元企業が主体となり実施したNHK交響楽団公演をはじめ、メディア等の共催事業をホールで5公演、美術館で2つの展覧会を実施した。	
	<b>市民協働を目的とした事業の推進</b> (1) 市民の皆さんによる開館を祝う事業の開催（市民から新しい施設のスタートを祝う事業を募集し、開館記念事業として冠を付与して開催） (2) 文化の薫るまちづくり実行委員会等の組織を活かした市民と協働により事業の計画・実施 (3) 子どもアトリエの運営（子どもアトリエの運営に向けた市民組織を立ち上げ、プログラムを策定し、開館後の実施準備を進めます） (4) 市民発表会等におけるスタッフによるフォロー体制の充実	(1) 12月～H27.12月 (2) 4月～3月 (3) 組織立上 6月 (4) 12月～3月	(1) 市民の皆さんによる開館を祝う事業を募集し開催する。 (2) 実行委員会主催の事業の開催 (3) 市民による子どもアトリエ運営委員会で検討し、プログラムを策定 (4) 市民が企画する開館記念事業の運営サポート体制を整備する。	(1)、(4) 第2期市民提案による「開館記念事業」を4月～5月にかけて募集し、第1期と合わせて51件の事業が決定した。12月から平成27年12月までの1年間事業展開し、センタースタッフが協力し市民とともに歩む施設として、多くの市民に利用してもらおう。 (2) NHK交響楽団開催のための実行委員会を立ち上げ、実行委員会を開催(2回)し、公演に向けた準備を行った。 (3) 7月に子どもアトリエ運営委員会を設立。プログラム案を策定し、実施の準備を行った。	(1) 募集、決定した市民提案事業が12月から実施され、3月末までに、ホールで9事業、美術館で6事業実施した。 (2) 市民を交えた実行委員会を組織し、NHK交響楽団公演、第九演奏会、山本鼎版画大賞展を開催し、市民協働の事業展開を図った。 (3) 7月に設立した子どもアトリエ運営委員会とともに、園児を受入れ、体験プログラムを実施した。また、児童生徒作品展など、子どもアトリエを活用した展示を行い、併せて事業周知を図った。 (4) 市民提案事業をはじめ、市民利用の事業について、主催者（市民等）とスタッフで舞台の準備や美術館の展示方法等について打合せを行ない、運営をよりスムーズに行うためのサポート体制を整えた。	
特記事項	<b>市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点</b> ・市民参加・協働による事業の実施 ・市民サポーターとともに施設運営を図る。			<b>取組による効果・残された課題</b> 市民と共に歩む施設として、市民協働の事業を推進していく中で、施設の運営や事業運営に登録いただいた市民サポーター組織の立ち上げや施設と地域を繋ぐ人材育成講座のアーツスタッフアカデミーを開催し、活動を通して施設の親近感と愛着を深めていただいた。今後においては、活動のルール等を整え、自立した組織となるよう取り組んでいく必要がある。市民からの開館を祝う提案事業を開催し、スタッフと市民団体等がコミュニケーションをとる中で、事業を推進した。		

## 平成26年度 重点目標管理シート

重点目標	魅力ある「鑑賞」事業の推進		部局名	交流文化芸術センター	優先順位	3位
総合計画における位置付け	第3編 自然・文化 第2章 新たな文化を創造していくために 第2節 新しい時代に向けた文化活動を創造する			2014市長マニフェスト における位置付け	- 3 -	
現況・課題	芸術文化をとおして魅力あるまちづくりを行うためには、次世代を担う子ども達を対象にした育成事業に取り組む必要があります。また、音楽や美術作品とのふれあいで心が癒され、楽しさと感動を提供する施設が望まれていることから、施設全体として多様で質の高い芸術に対応できる空間を用意し、市民が様々な芸術文化と触れ合える機会を提供するとともに、市民自らが、様々な形で発表できる場を提供することが必要と考えます。					
目的・効果	心のゆとり、豊かさが求められる今日、上田市においては、文化を基調とする独自性を活かして自立的に発展していくことが求められています。しかし、現状ではその拠点施設及び市民活動支援の取組における満足度は高いとは言えない中で、交流文化芸術センターを地域の魅力と活力を創るシンボル施設として位置づけ、上田市の有する地域文化や歴史的、文化的遺産等の資源を活かし、地域の将来を担う子どもたちの育成を目指します。教育や福祉・医療面との連携により行政効果、そして、まちに賑わいと活気をもたらす、観光や商業、地場産業なども含めた地域経済にも大きな波及効果をもたらす施設として建設し、心豊かな市民生活と都市創造の拠点とします。					
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
	<b>ホール鑑賞事業</b> (1) 市民から要望の多い各種公演を提供 オーケストラ演奏会、バレエ、ミュージカル公演、演劇、ポピュラー音楽公演、落語公演等 (2) 身近で親しみある公演を提供 市内の学校、公民館を会場としたコンサートやバックステージツアー等 (3) 共催・提携公演を提供 地元メディア等や興行企画と共催または連携して、幅広いアーティストのコンサート、ミュージカル、番組収録公演等	(1) 10月～3月 (2) 5月～3月 (3) 10月～3月	(1)～(3) 市民要望を参考とした公演や身近で親しみのある事業の実施に努めます。	(1)、(3) 自主事業や地元メディア等との共催または興行関係者との連携で、オーケストラやピアノコンサート、歌劇団や落語公演等、市民要望の多かった各種公演を企画し、開館後の開催に向けて事業着手した。 (2) 小学校17校、6地域(公民館)でクラスコンサート、ワンコイン(500円)コンサートを実施し、今後も実施予定。	(1) 施設開設準備段階で実施した、市民アンケートを参考に、開館記念事業、柿落し公演、共催事業等を計画し、開館後全ての事業がほぼ満席の状況で開催できた。 (2) 年間で市内全25小学校、9地域(公民館)でクラスコンサート、ワンコイン(500円)コンサートを実施した。 (3) 地元企業が主体となり実施したNHK交響楽団公演をはじめ、メディア等の共催事業をホールで5公演、美術館で2つの展覧会を実施した。	
	<b>市立美術館鑑賞事業</b> (1) 常設展示室による郷土作家の紹介 山本鼎、石井鶴三、ハリリー・K・シゲタ等 (2) 展覧会等の開催(企画展) 郷土作家の顕彰展、著名な作家の展覧会、海外の作家や貴重な作品の紹介等 (3) 身近で親しめる展覧会の開催 県展、東信展などの市民の発表の場の提供 (4) 共催・提携事業、ギャラリーコンサートの開催 地元メディア、企業等と協力した若手作家の展覧会等	(1) 10月～3月 (2) 10月～3月 (3) 随時 (4) 随時	(1)～(4) 市民要望を参考とした作品展や身近で親しみのある事業の実施に努めます。	(1) 8月に作品を市内各施設から美術館へ収蔵。展示準備を進める。 (2) 10月2日からの開館記念特別展の開催に向け、他館、個人等からの借用を9月に行い、展示を進めた。 (3) 開館後の開催に向け、スケジュール調整等を行い、PRに協力した。 (4) 地元メディアとの共催による若手作家の展覧会を12月から開催するため、実行委員会を組織し、周知活動を行った。	(1) 10月2日の開館から、山本鼎、石井鶴三、ハリリー・K・シゲタの展示を常設展示室において行い、その業績を紹介した。 (2) 開館記念特別展では、山本鼎を顕彰する展示を行うとともに、印象派絵画の展示を行った。 (3) 11月に長野県美術展が開催され、12月には写真県展、七高展の会場となるなど、大勢の市民の発表の場となった。 (4) 2月に森工房「大版画」の全貌展に併せ、ギャラリーコンサートを開催したほか、地元メディアとの共催により、若手作家育成・小松美羽展を12月～1月に開催した。また、3月からレオナルド・フジタ展を開催し、市民の芸術鑑賞の機会を拡大した。	
	<b>広報宣伝活動の推進</b> (1) 積極的なPR活動に努め適時、適切なラインナップの公開 (2) 専用ホームページの立ち上げ (3) 市民要望を把握するためのアンケート調査を随時実施	(1) 4月～3月 (2) 7月稼働開始 (3) 10月～3月	(1) 広報、機関紙、マスメディア等の積極的に活用します。 (2) HPによる積極的な情報提供と共にチケット販売の票券システムを構築する。 (3) 入場者や参加者からアンケートを取り、要望調査を行う。	(1) 「広報うえだ」毎1日号で特集記事を掲載し、施設の紹介や事業展開など市民に周知した。また開館に向けて地元テレビ局での取材放映や、長野こまち・うえだNavi等、雑誌やフリーペーパーに記事掲載し、広く県下にPR活動を展開した。 (2) 票券システムは9月21日のチケット販売から稼働。専用ホームページは検討中で、現在のホームページを積極的に活用して情報の提供をした。 (3) 開館前の芸術家ふれあい事業等でアンケート実施。開館後も各種事業でアンケートを実施して市民要望の把握に努める。	(1) 「広報うえだ」、行政チャンネルに特集記事を掲載し、施設の紹介やコンサート、展覧会等の情報を市民に周知した。また地元メディアや、長野こまち・うえだNavi等の雑誌やフリーペーパーに記事掲載し、広く県下にPR活動を展開した。 (2) イベント情報やチケット販売、施設利用について、多くの方に最新の情報を提供するため、サントミューゼ専用のホームページを立ち上げた。 (3) 小学校、公民館でのふれあい事業や、施設で行う自主事業開催時に来場者アンケートを実施し、ニーズの把握に努めるとともに、来館者の誘導や案内等、ホスピタリティーの向上を図った。	
	<b>事業経費の確保</b> (1) 国・県等の助成金の活用 (2) 地元メディア、企業等との連携強化(企業メセナ)と寄附金の有効活用	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 国・県等の助成金等の確保に努める。 (2) 企業メセナ等行動計画の策定	(1) まちづくり交付金、地域発文化芸術創造発信イニシアチブ補助金等の国の助成金、県の地域発元気づくり支援事業、一般社団法人地域創造等への事業採択に向けた申請を行い、各種事業の財源確保に努めた。 (2) 地元メディアとの共催で、開館記念事業を企画し着手した。また、地元企業等から開館に向けての事業や備品寄付等の提案を受け協議を進めた。	(1) 事業等の充実のため、国、県等の補助金、助成金への事業申請により、財源の確保に努めた。 (2) 地元メディア等との共催事業の開催により、多様化する市民ニーズに応えるとともに、地元企業等からの開館に向けた寄附により、ピアノや美術館鑑賞用椅子等備品類の充実が図れた。	
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・市民の意向を反映した事業の企画			取組による効果・残された課題 市民アンケートを参考として計画した、開館記念事業、柿落し事業については、ホール事業、美術館の展覧会とともに大勢の皆様、質の高い芸術の鑑賞の機会を提供できた。また、出演や出展されたアーティスト等からも施設についての高い評価が得られた。今後においても多種多様なメニューを計画し、市民等への鑑賞機会の創出に努めていく必要がある。		

## 平成26年度 重点目標管理シート

重点目標	交流文化芸術センター・市立美術館のスムーズな開館と運営			部局名	交流文化芸術センター	優先順位	4位
総合計画における位置付け	第3編 自然・文化 第2章 新たな文化を創造していくために 第2節 新しい時代に向けた文化活動を創造する			2014市長マニフェスト における位置付け		- 3 -	
現況・課題	「文化の薫る創造都市」の実現に向けて平成21年度に策定した整備計画及び平成23年度に報告を受けた運営管理計画検討委員会の検討結果報告書をベースに、基本理念の実現に向けた体制づくり、事業展開の計画を進めてきております。 運営体制については、10月2日の開館に向け、7月には、市民サポーターを含め開館スタッフ全員を配置し、接客研修を行うなど、着実な準備を行うことが必要です。 利用のルールについては、設置条例・規則等に基づき、3月からスタートした貸館受付が適切に管理されるための受付や利用のマニュアルの整備を進める必要があります。 事業については、開館記念式典及び記念事業の具体的な計画を確実に進めていく必要があります。 市民と歩む施設としていくための対応として市民サポーターなどの仕組みを作る必要があります。						
目的・効果	心のゆとり、豊かさが求められる今日、上田市においては、文化を基調とする独自性を活かして自立的に発展していくことが求められています。しかし、現状ではその拠点施設及び市民活動支援の取組における満足度は高いとは言えない中で、交流文化芸術センターを地域の魅力と活力を創るシンボル施設として位置づけ、上田市の有する地域文化や歴史的、文化的遺産等の資源を活かし、地域の将来を担う子どもたちの育成を目指します。教育や福祉・医療面との連携により行政効果、そして、まちに賑わいと活気をもたらし、観光や商業、地場産業なども含めた地域経済にも大きな波及効果をもたらす施設として建設し、心豊かな市民生活と都市創造の拠点とします。						
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
	施設関係（本体工事、付帯工事、維持管理） (1) 本体工事の竣工と引渡し (2) 付帯外構工事の品質確保と早期竣工 (3) 円滑な施設運営のための維持管理 (4) サイン計画の策定と設置	(1) 6月 (2) 4月～9月 (3) 6月～3月 (4) 4月～9月	(1) 完全なものとして6月中に引渡しを受ける。 (2) 工事品質を確保し、開館までに一定の工事を終了させる。 (3) 施設の保全計画及び長期修繕計画を作成し計画的な維持管理が行えるようにする。 (4) 実用的かつ施設的环境にマッチングした計画を策定し、10月の開館に影響が出ないよう工事の施工を行う。	(1) 工事検査に合格し6月12日に引渡しを受け、同日引渡し式を行った。  (2) 水景施設と外構照明設備工事については、開館前に工事が終了した。 屋外トイレ及び駐輪場建設工事については現在手続中。  (3) 施設の保全計画及び長期修繕計画について検討している。  (4) 開館に必要なサインの設置を行った。		(1)～(4) 施設の本体工事、設備工事については、6月の引渡し後に施設利用と点検を重ね、改善箇所等については、随時施工業者と協議し、改善した。  屋外トイレ、駐輪場、サイン設置等の付帯工事について3月末までに竣工し、引き渡しを受けた。  円滑な施設運営を行なうため、施工業者、管理委託業者とともに、設備運転の習熟に努めるとともに、設備点検等の整備計画を立て、施設運営を行なった。	
	開館に向けた諸準備 (1) 正規職員、アドバイザー、臨時職員、委託職員、サポーター等を組み合わせた施設の運営・管理体制の構築 (2) 委託業務の契約（警備、清掃、機械、維持管理等） (3) 開館に必要な備品等の発注、納品 (4) 決定した愛称、ロゴマーク等の作成と活用 (5) スタッフ研修の実施 (6) 舞台設備等の操作の習熟と運転調整	(1) 7月 (2) 6月 (3) 5月～7月 (4) 6月 (5) 4月～9月 (6) 4月～9月	(1) 全スタッフの勤務体制を調整、管理、運営体制を整えます。  (2) 施設運営、管理に必要な業務委託の契約を施設引き渡し前に行います。  (3) 5月中に開館時必要物品の発注を行ないます。  (4) 決定した愛称、ロゴマークを施設及び印刷物等に表示し、市民に親しみやすい施設となるための有効かつ効果的な活用に努めます。  (5) 施設運営、各事業等全てのスタッフのホスピタリティーの向上に努めます。  (6) 公演等を安全に行うため、機械類等の操作習熟に努めます。	(1) 4月～9月にかけてホール臨時職員6人、美術館臨時職員5人を採用した。音楽専門スタッフを6月～7月に2人採用した。その他、客席誘導員、美術館監視員、市民サポーターを募集し、運営体制を整えた。  (2) 6月からの清掃業務・警備業務・設備運転業務・設備保守点検業務・建築物環境衛生管理業務を一括して総合管理として業者委託契約を締結した。また、舞台機構等の保守管理についても契約を締結した。  (3) 施設備品、舞台備品、消耗品等について、4月から順次発注し開館及び開館後の公演、展示会等に必要物品を購入した。  (4) 6月に施設のシンボルマークとロゴデザインを制作し、報道等を活用して広くPRするとともに、施設の看板、封筒等の印刷物に活用した。  (5) アーツスタッフアカデミー、客席誘導員等の研修を開催し、全スタッフが参加することにより、職員の研修を行い、資質の向上を図った。  (6) 舞台技術職員のほか、8人の舞台技術スタッフを派遣により配備し、開館準備作業及び舞台機構等の操作習熟を図った。また、施設設備についても委託した総合管理事業者とともに、設置業者との打ち合わせや操作説明を受け、開館に向けた運用の準備を行った。		(1) 開館に向け、スタッフの採用や研修を行い、運営体制を整備した。また、応募した客席誘導員、美術館監視員、市民サポーター等との研修やミーティングを行い、施設の運営をスタートした。  (2) 施設運営、管理に必要な業務委託契約を開館前に締結し、スムーズな施設運営を図った。  (3) 必要物品等の入札、発注を順次行い開館に必要な物品及び各事業に必要な物品について運営に支障がない期日までの納品に努めた。  (4) 決定したシンボルマークとロゴデザインを施設の案内サインや事業のチラシ、ポスター、チケット等に活用することで、効果的な施設や事業のPRを図った。  (5) 市民向け公開講座やスタッフの研修会を開催した。また、避難訓練を実施するなど、ホスピタリティーの向上と来館者の安全な避難誘導のための経験を積重ねた。  (6) 開館前から舞台技術スタッフを配置し、機械類等の操作習熟に努め、開館後の各種事業での舞台設備の安全な運営を行なった。	
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			取組による効果・残された課題 6月の施設引渡し後に、10月の開館を目指して施設管理、機械器具類の運用、舞台設備操作等について、施工業者とともに安全な運営についての検討や研修、技術の習得に努め、10月2日のグランドオープンを迎えた。 職員、非常勤職員、委託業者を含めた施設の運営、管理体制を整え、施設の開館とともに、「文化創造元年」としての開館記念事業、柿落し事業等に取り組み、市民等に対して各種の芸術文化事業の提供を行なうことで、サントミュージゼを広くPRすることができた。 スタッフの研修を重ね資質の向上をさらに図るとともに、施設の安全面や管理、運営等の経費の削減に努める必要がある。			